

書名 項目	<h1>新編 新しい国語</h1>	2 東 書
内 容	<p> ＜知識及び技能が習得されるようにするための工夫＞ ○「情報と論理の学び」では、原因と結果、意見と根拠、具体と抽象などの情報と情報との関係の捉え方などの情報の整理の仕方を、体系的に学ぶことができる。 ○古典の導入作品では学ぶ意義が示され、古典に興味を持ち、親しめるように工夫されている。てびきの中の「資料」では、古典作品に関連する知識が紹介されている。 </p> <p> ＜思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫＞ ○「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」で育成する資質・能力が、「言葉の力」として、わかりやすい表現で示されている。また、言語活動に取り組みやすくするために、各項目で活動例を示すなど言語活動の充実が図られている。 ○「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」では、多彩な言語活動が用意されており、思考力、判断力、表現力等の基盤を身に付けるための工夫がされている。 </p> <p> ＜学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫＞ ○巻末に『言葉の力』一覧」として、3年間の「言葉の力」が示されており、学習の見通しをもって学ぶことができる。 ○「学びを支える言葉の力」では、情報の関係や情報の整理、文学や対話の基本について学べるように工夫されている。 </p> <p> ＜読書を通して人生を豊かにしようとする態度を育成するための工夫＞ ○「読むこと」の教材ごとに「読書案内」が配置されている。「読書と情報」「読書活動」が配置され、豊かな読書生活を支援する工夫がみられる。 ○図書館の活用・ポップ作り、インターネット・新聞の活用、ビブリオバトル、読書会の方法など、多彩な読書活動に取り組めるよう工夫されている。 </p>	
資 料	<p> ○巻頭では、「デジタルコンテンツの使い方」が、巻末では、「デジタルコンテンツ一覧」などが掲載されており、主体的に活用できるように工夫されている。 ○資料編には、教材に関連する別の小説・説明文や古典作品などが掲載されており、本編の作品と読み比べたり、読み広げたりすることができる。 </p>	
表記・表現	<p> ○新出漢字を1字で脚注に複数の読み方とともに示している。長文の行数について、「5、10、15」と「・」で表記されている。 </p>	
総 括	<p> ○各教材ごとに「見通す」「振り返る」、次の学習への展望を持つという仕組みによって、主体的に学習できる工夫がされている。 </p>	

書名 項目	<h1>現代の国語</h1>	15 三省堂
内 容	<p> <知識及び技能が習得されるようにするための工夫> ○「語彙を豊かに」として、各教材に使用されている言葉に関連させた語句が示されている。表現方法の例も示されており、使用することで生活に生かすことができる。 ○我が国の言語文化の学習では、図や写真が多く使用されており、興味や関心を持ちやすい作りになっている。古典の学習では、歴史的仮名遣いや漢詩の形式、訓読の仕方などが簡潔に示されている。 </p> <p> <思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫> ○「読み方を学ぼう」や「思考の方法」が示されており、「何を、どのように考え、学ぶのか」が明確に示されている。 ○「話すこと・聞くこと」の教材では、「話し合いのこつ」が示されており、3年間で12個のこつを身に付けることができる。国語だけでなく他教科や、その他の話し合いの場面での活用が可能である。 </p> <p> <学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫> ○巻頭に「つけたい力を確かめよう」として、各教材において身に付ける力が示されている。 ○各教材の目標では、特に重要視しているキーワードを目立たせており、見通しをもった学習ができるようになっている。 </p> <p> <読書を通して人生を豊かにしようとする態度を育成するための工夫> ○「私の読書体験」として、作家の文章が掲載されている。巻末には、小説だけでなく説明的な文章や古典の教材が掲載されている。 ○私が選ぶ一文の紹介、ビブリオバトル、ブックトークに取り組み、社会生活とつながる読書活動が取り入れられている。 </p>	
資 料	<p> ○どの分野の教材でも図が多く使用されており、考え方などが可視化できるようになっている。 ○カラーユニバーサルデザインの観点で作成された部分があり、色だけで判別する必要がなく罫線や補助的な説明がされている。 </p>	
表記・表現	<p> ○新出漢字や語句を、使用例や類語・対義語とともに脚注に示している。文章の行数が「5、10、15」で表記されている。 </p>	
総 括	<p> ○「学びの道しるべ」「思考の方法」「読み方を学ぼう」が示されていることで、「何を」「どのように学ぶのか」が明確化され、「できるようになった」ことが分かりやすい。 </p>	

書名 項目	<h1>伝え合う言葉 中学国語</h1>	17 <div style="border: 1px solid black; display: inline-block; padding: 2px;">教 出</div>
内 容	<p><知識及び技能が習得されるようにするための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○単元内に「言葉の小窓」「文法の小窓」を配し、日常生活から言葉の機能に気づくよう導入を図り、巻末の解説教材へと繋げている。 ○「言葉・情報」の項目では、現代の課題を捉え、具体的な表現の型を用いて表現し、情報活用能力の育成を図っている。 ○古典では、あらすじと原文を交互に載せ、挿絵や古典知識等を入れて親しみやすくしている。また、色を変えて仮名遣いの違いを示し、その法則をまとめている。 <p><思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○教材文の前に「学びナビ」を設定し、読み方を示してから本文に入ること、見通しをもつと共に、「どのような力が付くのか」を意識して主体的に学ぶことができる。 ○一つの単元に複数の教材文を提示し、比較して読むことで、読みを深めると共に、汎用的な読む力を形成することができる。 <p><学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○教材文の後に「みちしるべ」を設定することで、問いをもとに自らのペースで学びを深めることができる。 ○振り返りの視点を提示することにより、目標に対応しつつ「主体的に学習に取り組む態度」の振り返りや評価に繋げることができる。 <p><読書を通して人生を豊かにしようとする態度を育成するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○各単元に関連した図書を、「広がる本の世界」を設けて紹介している。 ○本の帯づくり、引用の仕方、図書館活用・インターネットの注意点、ビブリオバトルなど、実生活に即した読書活動が示されている。 	
資 料	○近代文学作品をビジュアルな解説と共に掲載している。挿絵や写真も多い。	
表記・表現	○新出漢字は手書きの参考となるよう、教科書体で示している。文章の行数が「5、10、15」と「・」で表記されている。	
総 括	○「学びナビ」に触れてから教材文に入ったり、「みちしるべ」を活用したりすることで、見通しをもって「個別最適な学び」の授業を展開させることができる。	

国語科（国語）調査資料 1 - 4

書名 項目	<h1 style="font-size: 2em;">国 語</h1>	3 8 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">光 村</div>
内 容	<p><知識及び技能が習得されるようにするための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○身に付けた知識・技能を確認できるよう「国語の力試し」が設定されており、生徒が自分自身で「何ができるようになったのか」「課題は何か」を明確に把握することができるようになっている。 ○「語彙を豊かに」「言の葉ポケット」を設けることで、語彙を広げ、場面に応じた言葉遣いを指導できるような工夫が見られる。 ○古典に親しませるために、作品の全体像を解説するコラムや絵巻・地図、朗読音声に掲載されている。巻末資料で古典芸能や古典作品が取り上げられている。 <p><思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○教材で身に付ける資質・能力を「学びのカギ」で焦点化し、図解で視覚化することで、生徒の「思考力・判断力・表現力」を向上させようとしている工夫が見られる。学年を超えて過去の学習を想起し、活用できるようになっている。 ○「話すこと・聞くこと」の教材に「聴解力」を鍛える新系列を記載している。 <p><学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○教材のポイントを、授業の導入時に短時間で押さえることができる工夫が見られる。 ○生徒にとってなじみのある著名人の言葉を記載することで、生徒の興味や関心を高める工夫がされている。 <p><読書を通して人生を豊かにしようとする態度を育成するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○説明的文章では、複数の教材を比較して読めるような工夫が見られる。また、文学的文章では、定番の教材に加え、生徒から人気の高い現代作家の作品が見られる。 ○ポップづくりや読書会・読書記録、ブックトークやポスターづくり、ブックレビューなどに取り組み、社会生活とつながる読書活動が示されている。 	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> ○古典資料では、迫力ある紙面で視覚的に時代背景を捉えられる工夫が見られる。 ○ユニバーサルデザインが採用されており、視認性を意識している。 	
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> ○新出漢字は脚注に1字で載せ、掲載された行数と漢字の読み方が用例とともに示されている。長文の行数が「5、10、15」と「・」で表記されている。 	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> ○説明的文章では、複数教材を比較して読めるような工夫が見られる。文学的文章では、長く愛されてきた教材に加え、生徒から人気の高い現代作家の作品で学習することができる。 	